

[花き部門]

1. 簡易被覆によるリンドウの開花促進

[要約]

「おかやまオリジナルリンドウ」早生F1系統では、パオパオ90Rのべたがけを12月中旬から開始し、越冬芽伸長以降はトンネル状とし、被覆を5月中旬まで継続すると、一週間程度の開花促進が期待できる。

[担当] 中山間農業研究室

[連絡先] 電話 0867-66-2043 (高冷地研究室)

[分類] 情報

[背景・ねらい]

リンドウでは早期出荷を目的とした促成栽培では、施設・光熱費等の経費がかかる。そこで、不織布を用いた簡易被覆を行い、露地圃場における開花促進効果を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 不織布による被覆を12月中旬に開始し、5月中旬まで行くと、無被覆区に比べ開花が促進される(表1、2、図1)。
2. 最も開花促進効果のある12月中旬開始区と無被覆区では、開花日の揃いに差はない(表1、2)。
3. 被覆開始時期の違いによる切り花品質への影響はない(表1、2)。
4. 被覆は、当初はべたがけとし、越冬芽伸長後はフラワーネットを利用するなどトンネル状とし、茎が曲がらないように管理する(図2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 場内(津山市・標高120m)の結果であり、冬期から春期にかけて気温が低い地域(高標高地等)では、開花促進効果が得られない可能性がある。
2. 被覆は除去が早いと効果が劣るため、5月中旬(草丈70cm程度)まで行う。
3. 畝上への敷きわらは被覆開始前及び終了後とし、被覆中は設置しない。
4. 越冬芽伸長以降に積雪の恐れがある場合は被覆を除去する。

[具体的データ]

表1 被覆開始時期（11月～1月）がリンドウの切り花品質に及ぼす影響

被覆開始時期	平均開花日 (月日)	同左標準偏差 (月日)	草丈 (cm)	茎径 (mm)	花段数 (段)	小花数 (個)	小花数/ 花段数
	*		ns	ns	ns	ns	ns
11月16日	7月10日	ab ±6.3	89	3.6	6.3	19	3.0
12月15日	7月8日	a ±5.1	86	3.8	6.3	19	3.0
1月15日	7月11日	ab ±3.7	84	3.5	5.9	18	3.1
無被覆	7月16日	b ±5.1	92	4.1	6.9	25	3.6

注) * : 5%水準で有意 ns : 有意差なし(分散分析) 同一英文字間に有意差なし(Tukey法)
No.51の4年生株を用い、5月15日までパオパオ90Rを用いて被覆した。

表2 被覆開始時期（12月～3月）がリンドウの切り花品質に及ぼす影響

被覆開始時期	平均開花日 (月日)	同左標準偏差 (月日)	草丈 (cm)	茎径 (mm)	花段数 (段)	小花数 (個)	小花数/ 花段数
	*		ns	ns	ns	ns	ns
12月12日	7月10日	a ±4.0	105	4.7	5.6	23	4.1
1月16日	7月13日	ab ±5.0	116	4.6	5.4	24	4.5
2月13日	7月15日	ab ±6.2	115	4.9	5.4	26	4.9
3月13日	7月16日	b ±6.4	118	4.8	5.4	28	5.2
無被覆	7月16日	b ±5.9	116	4.8	5.5	26	4.8

注) * : 5%水準で有意 ns : 有意差なし(分散分析) 同一英文字間に有意差なし(Tukey法)
No.47の3年生株を用い、5月15日までパオパオ90Rを用いて被覆した。

被覆開始時期	11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
11月																														
12月																														
1月																														
2月																														
3月																														
無被覆																														

○ : べたがけ開始 ○ : べたがけ終了、トンネル開始 × : トンネル終了 ○ : 収穫

図1 被覆開始時期がリンドウの開花期に及ぼす影響

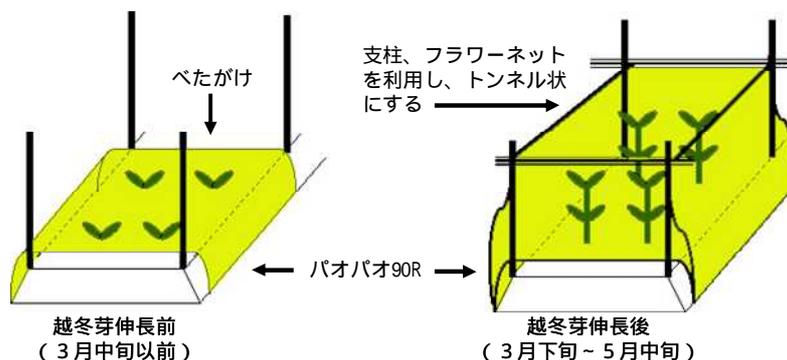


図2 パオパオ90R設置方法

[その他]

研究課題名 : オリジナルリンドウの連続出荷と新作型の開発

予算区分 : 県単

研究期間 : 2007～2011年度

研究担当者 : 中島拓、森義雄

関連情報 : 平成15年度試験研究主要成果、63-64